

6. 林業普及指導事業

(1) 農林技術会議林業分科会要望課題検討会の採択状況

年 度	要 望 課 題	区 分
平成 12 年度	1. スギ・ヒノキ等人工林内に進入したモウソウチクの薬剤による駆除について	D
	2. 間伐手遅れ林分の管理技術指針の作成	C
	3. 間伐材の有効利用について	A1
	4. 間伐材の流通情報システムの開発について	D
	5. ギンナンの果肉の成分分析及び、その有効利用法について	D
	6. 海岸県有保安林における樹種管理について	B1
	7. 山間部において実播工を実施する場合の使用する種子の選択・組合せの決定方法について	D
	8. スギ非赤枯性溝腐病被害部分の利活用について	F → F
	9. 造林マットの開発	F → F
	10. シイタケ栽培方法別のパソコンによる経営分析ソフトの開発	F → F
平成 13 年度	1. 砂利採取跡地等の植生回復方法について	D
	2. 千葉県のある森林の有する公益的機能の経済的再評価	B1
	3. スギ材の用途選別技術の開発	
	①含水率測定器の精度検証	E
	②硬さ・密度測定器による測定	B1
	③グレーディングマシーンによる非破壊強度評価法	B1
	4. 長期育成循環施業の技術的合理性の検証と施業体系の作成	B1
	5. ヤマビル防除対策	D
	6. 間伐手遅れ林分の管理技術指針の作成	C → C
7. スギ非赤枯性溝腐病被害林分の利活用について	F → F → G	
8. 造林マットの開発	F → F → G	
9. シイタケ栽培方法別のパソコンによる経営分析ソフトの開発	F → F → G	

注) 区分

A₁ 翌年度採用 A₂ 翌々年度採用 B₁ 県内で実施中 B₂ 県外で実施中
 C 現地調査の上検討 D 既に知見 E 実施不可能 F 技術調整部に付託
 G 解決済み H その他

年 度	要 望 課 題	区 分
平成 14 年度	1. 房総のヒメコマツの保全について	B
	2. 千葉県における里山林整備指針の作成	B
	3. 樹皮を、ペレット状やボード状に加工しての有効利用の検討	B
	4. 丸太の葉付き乾燥技術の確立と人工乾燥コスト低減に及ぼす影響	B, A
	5. 間伐手遅れ林分の管理技術指針の作成	C → C → B
平成 15 年度	1. マテバシイ林の管理方針について	C
	2. 低湿地に造成した海岸防災林管理の検討	A
	3. 富津海岸保安林における既設防風施設（防風ネット）の見直しについて	B
	4. 森林土木事業における法面緑化工法の検討	A
	5. マテバシイ林の防災的見地からの適正管理	C

注) 区分（平成14年度から採用区分が変更）

A 新規課題として採用する
 B 新規課題として採用しない
 C 現地調査のうえ検討する
 D 技術調整部に付託する

平成 16 年度	1. 第54回全国植樹祭の植樹会場で造成した森林の今後の調査・検討	A 2
	2. 省力・低コストな森林造成技術の開発	C
	3. 木質バイオマス資源の再資源化システムの検証及び生産される炭化物物の性能分析・用途開発	C
	4. 木材の燻煙乾燥技術について	A 2
	5. マテバシイ林の防災的見地からの適正管理	A 2

注) 区分（平成16年度から採用区分が変更）

A1 新規課題として採用する
 A2 現在実施中の研究課題で対応する
 A3 現地において問題解決する
 B 新規課題として採用しない
 C 現地調査のうえ検討する
 D 技術調整部に付託する

(2) 森林研究センターにおける平成 16 年度試験研究課題一覧表

コード No.	課 題 名	研究期間	担当研究室
(育林)		平成 年	
A-(1)	混交林及び複層林による木材生産技術の確立	13～17	環境機能研究室
(2)	長伐期化に対応した人工林管理技術の確立	13～17	"
(3)	広葉樹二次林の有用樹林化技術の確立	13～17	"
B-(1)	花粉飛散予測技術の確立	13～17	"
(2)	花粉飛散抑制のための森林造成管理技術の確立	13～17	"
(環境保全)			
C-(1)	里山の保全、整備及び活用技術の確立	13～17	"
(2)	生物相を指標とした里山環境評価技術の確立	13～17	"
(3)	里山における森林アメニティ評価技術の確立	13～17	"
(4)	森林・樹木の衰退状況による環境把握	13～17	"
(森林防災)			
D-(1)	海岸防災林による津波、高潮等防除技術の確立	13～17	"
(2)	海岸砂丘低湿地に造成した海岸防災林管理技術の確立	16～17	"
(3)	地形及び地質に適合した法面緑化技術の確立	16～17	"
(4)	マテバシイ林の山地保全型管理技術の確立	16～17	"
(木材加工)			
E-(1)	低コスト木材乾燥技術の開発	13～17	"
(森林保護)			
F-(1)	穿孔性害虫の県内分布及び生態と防除に関する研究	13～17	森林保全研究室
(2)	材質腐朽病の発生環境調査及び防除に関する研究	13～17	"
(3)	都市林における病害虫の発生生態調査	13～17	"
(林木育種)			
G-(1)	林業用優良品種の導入と特性把握	13～17	"
(2)	林業用有用樹種の遺伝的多様性の把握	13～17	"
(3)	森林の諸機能発揮に適した樹種の選抜	13～17	"
(4)	花粉の少ないスギの品種改良と安定生産	13～17	"

コード No.	課 題 名	研究期間	担当研究室
(特用林産)			
H-(1)	高品質原木きのこの安定生産技術の開発	13～17	特用林産研究室
(2)	付加価値の高い菌床きのこの安定生産技術の開発	13～17	"
(3)	地域性の高い山菜等の安定生産技術の開発	13～17	"
(4)	菌根性きのこの安定生産技術の確立	16	"
(5)	マテバシイの鋸屑を用いたシイタケ菌床栽培技術の実証	16	"
(モニタリング)			
(1)	酸性雨等環境汚染の長期モニタリング調査	13～17	環境機能研究室
(2)	臨海埋立地における環境保全林のモニタリング調査	13～17	"
(3)	マツノマダラカミキリの発生予察調査	13～17	森林保全研究室
(事業)			
事-1	林木育種事業	13～17	森林保全研究室
事-2	環境保全型農林業技術開発研究事業	15～19	プロジェクト
事-3	スギ非赤枯性溝腐病対策研究事業	11～17	プロジェクト
事-4	農林業未利用資源リサイクル研究事業	13～17	プロジェクト
事-5	ゴルフ場等無農薬化推進事業	11～17	特用林産研究室
事-6	森林吸収源計測・活用体制整備強化事業	15～17	環境機能研究室

注) コード番号は農林業の試験研究推進構想(平成13～17年度)に基づき作成

- A: 多様な森林造成技術の確立
- B: スギ及びヒノキ花粉の飛散抑制技術の確立
- C: 森林環境の保全及び森林の活用技術の開発
- D: 森林の水土保全及び防災機能維持増進技術の確立
- E: 県産材の利用促進技術の開発
- F: 森林の病虫獣害対策技術の確立
- G: 林業用優良品種の育成
- H: 特用林産物の安定生産技術の開発
- 事: 事業課題

(3) 平成 16 年度林業専門技術員活動実績

専門項目	人 員	活 動 場 所						
		本 庁	出先事務所	試 験 研究機関	研修施設等	現 地	そ の 他	計
造 林	4	2,861	192	1,900	192	1,330	184	6,659
経 営	1	1,646	8	12	16	8	44	1,734
林業機械	1	1,286	25	20	86	241	36	1,694
特用林産	1	1,376	64	16	4	28	20	1,508
計	7	7,169	289	1,948	298	1,607	284	11,595

(4) 平成 16 年度林業改良指導員活動実績

普及の対象等 普及指導 の内容		個 別 指 導				集 団 指 導						
		林 家	会社等 の 事業体	市町村	森 林 組 合	林 家	会社等 の 事業体	市町村	森 林 組 合	林 研 グループ	青少年	
林 業 経 営		466	176	310	105	43	17	18	28	22	2	
造 林		730	8	167	103	64	36	3	38	38	52	
森 林 保 護		427	12	114	24	22	8	1	12	4	20	
林 産		163	191	26	7	21	16	4	36	19	4	
特 用 林 産		988	78	59	23	433	49		27	11	110	
林 業 機 械		28	8	9	24	40		4		27	22	
普 及 方 法		613	115	144	25	191	41	26	26	339	730	
森 林 機 能 保 全		72	78	220	21	144		10	16	3	70	
そ の 他												
計		3,487	666	1,049	332	958	167	66	183	463	1,010	
手 段 別 内 訳	直	現 地	1,730	92	243	116	552	122	41	136	293	833
	接	林家等 への訪問	1,190	323	222	179	190	35	2	47	62	103
		林家等の 来 訪	156	96	253	8	78	2	22		50	31
		間 接 (電話、手紙)	411	155	331	29	138	8	1		58	43

(単位：時間)

活 動 内 容							1人あたりの活動時間	備 考
AGの指導	調査研究	AG以外の指導	連絡調整		普及指導の備	その他		
			教育機関 試験研究	市町村 その他の 行政部門				
511	1,656	987	666	1,034	1,225	537	6,616	
296	405	78	155	177	513	110	1,734	
153	458	306	73	156	543	5	1,694	
484	196	188	96	222	288	34	1,508	
1,444	2,715	1,559	990	1,589	2,569	686	1,925	

(単位：時間)

小 計	情 報 収 集	連絡調整		普及指導 標準 備	研 修 講 受 講	普 及 指 導 打 合 せ	普及関係 事務報告	その他	計	一人当り 活動時間
		S P	その他							
1,187	847	52	259	1,154	110	64	215	322	4,210	301
1,239	200	10	53	600	72	14	16	47	2,251	161
644	105	34	21	321		4		65	1,194	85
487	45		7	123	108	12	8	124	914	65
1,778	363	65	110	1,531	150	16	85	75	4,173	298
162	93	3	22	113	48	12	33	16	502	36
2,250	444	95	232	2,173	148	66	353	788	6,549	468
634	264	19	36	333	12	2	72	132	1,504	107
								10	10	1
8,381	2,361	278	740	6,348	648	190	782	1,579	21,307	1,522
4,158										
2,353										
696										
1,174										

(5) 研修及びシンポジウム

研修の名称	目的等	対象者	人員	時期	場所	講師	研修等の内容	評価
全員研修	普及指導職員の資質の向上を図る	林業改良指導員・林業専門技術員	21人	16年4月18日	千葉県森林会館	林業専門技術員	普及指導業務について	普及指導業務の計画的推進を確認した
			76人	17年1月19日	千葉県文書館	林業専門技術員	林業普及成果発表	普及指導の実績を発表した
特技研修	林業税制と優良林業経営の研修	林業改良指導員	10人	16年8月31日	森林研究センター	林業専門技術員	林業税制実務と優良林業経営現地研修	山林所得、相続税等の林業税制知識を習得した
	密度管理手法を用いた森林管理の研修	林業改良指導員	12人	16年11月1日	中部林業事務所 鬼泪山支所	林業専門技術員	森林管理に必要な密度管理研修	密度管理の基礎、密度管理手法知識を習得した
	シイタケ栽培の新しい技術の研修	林業改良指導員	11人	16年12月9日	森林研究センター	林業専門技術員・研究員	シイタケ栽培の最新技術研修	菌床栽培及び害虫防除法の新しい技術を習得した
	クリ栽培技術の研修	林業改良指導員	11人	16年12月15日	森林研究センター	林業専門技術員・研究員	クリ栽培における剪定研修	クリ園の仕立方及び剪定技術を習得した

(6) 千葉県のエ業を育てる会

回数	年度	視察研修先	内 容	参加者数
1	H 8	栃木県大田原市	間伐材加工、木材共販所	78 名
2	H 9	愛知県額田町	林業経営、間伐施業	72 名
3	H10	山梨県南部町	富士川林業地（林業経営、木材共販所、竹炭）	73 名
4	H11	福島県いわき市	緑川平寿のエ業経営	70 名
5	H12	宮城県鳴子町、山形県金山町	中新田エノキタケの生産及び高友林業 100 年の主伐金山林業 間伐、山村活性化等森林組合の取組み	157 名
6	H13	富山県立山町、氷見市仏生寺	タテヤマスギ林業地（大スギ、長伐期複層林） ボカスギ林業地（さし穂林業）	85 名
7	H14	群馬県利根郡利根村、沼田市	高性能林業機械等視察、（林野庁 森林技術総合研修所 林業機械化センター） 菌床きのこ栽培技術研修（森産業（株）沼田工場）	71 名
8	H15	長野県中野市、長野市	列状間伐（カラマツ） 北辰木材流通加工センター	71 名
9	H16	静岡県天竜市 静岡県浜北市	天竜市森林組合（小径木加工場） 静岡県森林組合連合会（原木市場）	71 名

(7) 千葉県指導林家・林業士認定状況（平成 17 年 3 月末現在）

（単位：人）

普及指導区別	指 導 林 家	林 業 士	計	備 考
千 葉	9	9	18	
東 葛 飾	2	1	3	女性 1 名（林業士）
印 旛	7	3	10	
香 取	3	7	10	
海 匝	1	2	3	
山 武	6	13	19	女性 1 名（林業士）
長 生	7	4	11	女性 1 名（林業士）
夷 隅	7	7	14	女性 1 名（林業士）
安 房	10	9	19	女性 1 名（指導林家）
君 津	7	10	17	
計	59	65	124	

(8) 林業機械器具の現況

番号	機械種名		備考	単位	地方公共団体		学校
1-1	索道	索道重量式		セット			
1-2		索道動力式		セット			
2-1	集材機	小型集材機	動力10ps未満	台	1		
2-2		大型集材機	動力10ps以上	台	1		1
3	モノケーブル		ジグザク集材施設	台			1
4	リモコンウィンチ		リモコン、ラジコンによる可搬式木寄せ機	台	1		
5	自走式搬器			台	2		
6	モノレール		懸垂式含む	台			1
7-1	運材車		動力20ps未満のもの	台	1		
7-2			動力20ps以上のもの	台	4		1
8-1	ホイールタイプトラクタ		林内で集材等の作業を行う林-内用 ^o のトラクタ	台			
8-2	クローラタイプトラクタ		上記でクローラタイプのもの	台			
9	育林用トラクタ		主として地拵え等の育林作業用	台			
10	フォークリフト			台	4		
11	フォークローダ			台			
12-1	クレーン	運材機能なし	トラッククレーン、ホイールクレーン等	台	2		
12-2		運材機能あり	クレーン付きトラック	台			14
13-1	グラップル	運材機能なし	グラップルローダ作業車	台			
13-2		運材機能あり	グラップルローダ付きトラック	台			
14	トラクタショベル		搬出、育林用等に係わる土工用	台			
15	ショベル系掘削機械		搬出、育林用等に係わる土工用	台			
16	チェーンソー			台	51		6
17	チェーンソー装置		リモコンチェーンソー架台	台			
18	刈払機		携帯式刈払機	台	52		12
19	植穴堀機			台			1
20	動力枝打機		自動木登り式	台	3		1
21			背負い式等の上記以外のもの	台			
22	苗畑用トラクタ			台			1
23	樹木粉碎機		伐倒木、伐根、枝条等を粉碎する機械	台			
24	フェラーバンチャ		立木を伐倒、集積する自走式機械	台			
25	スキッド		牽引式集材専用のトラクタ	台			
26	プロセッサ		枝払い・玉切りする自走式機械	台	2		
27	ハーバスタ		伐倒・枝払い・玉切りする自走機械	台			
28	フォワード		積載式集材専用車両	台	1		
29	タワーヤーダ		元柱を具備した自走式機械	台	2		
30	スイングヤーダ		簡易索張方式に対応し、かつ旋回可能なブームを装備する集材機械	台			
31	その他の高性能林業機械		従来の高性能林業機械上記7機種以外の高性能林業機械	台			
32	グラップルソー		巻立・玉切り自走式機械	台	1		

注) 対象の林業機械は、主として伐採、搬出、育林に使用されるもの。(製材工場で使用されるものは含まない。)

(平成 17 年 3 月 31 日現在)

所 有 区 分 別 数 量							
会 社	森林組合	その他組合等		集 落	研究機関	個 人	合 計
		支援センター	その他				
28						5	33
						1	1
35	5					35	76
25	2					24	53
	1		1	1		13	17
1	5				1	18	26
2	1						5
						1	2
5	5		7		2	45	65
	2					87	94
2						1	3
3							3
							0
129	6				1	44	184
21						2	23
13	1					11	27
93	6					26	139
3	3					4	10
4						1	5
7						1	8
12	1					18	31
889	68		91	2	8	3332	4447
							0
253	54		15	4	8	4506	4904
	2					2	5
1	12				3	113	133
	2					11	13
					3	222	226
4	1				1		6
	1						1
							0
							2
							0
							1
							2
							0
							0
2	1		1				5

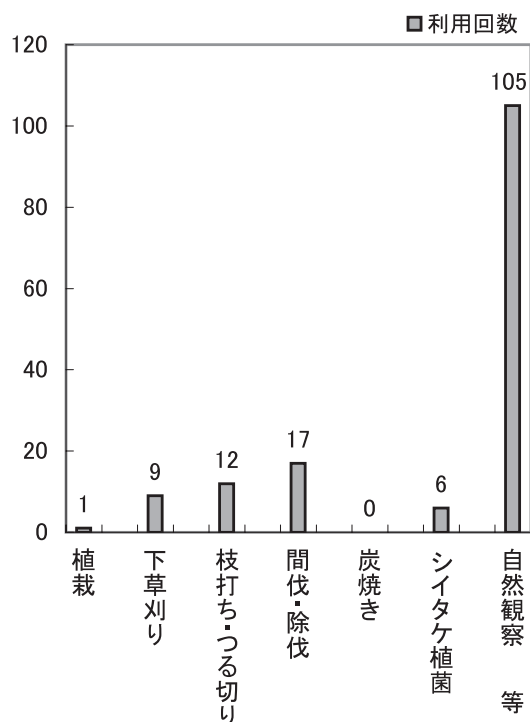
(9) 平成 16 年度教育の森の利用状況

(平成 17 年 3 月 31 日現在)

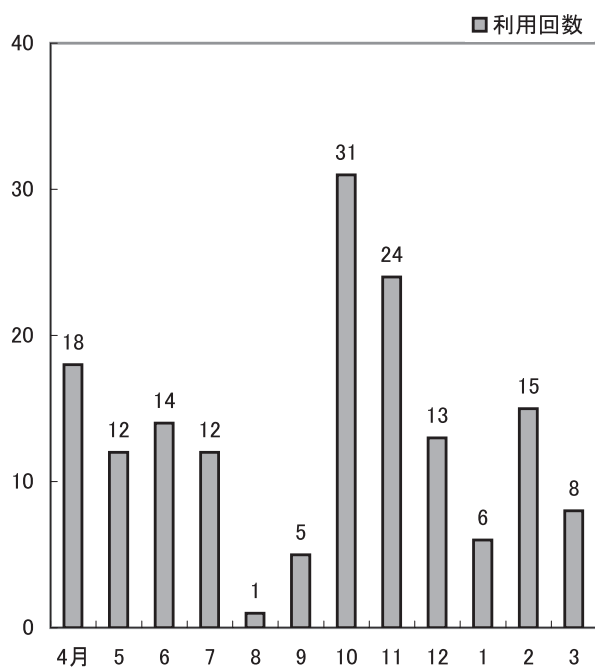
農林振興 センター名	利 用 回 数			利 用 人 数		
	学校の利用	その他の利用	計	学校の利用	その他の利用	計
千 葉	2	3	5	48	49	97
東 葛 飾	2	4	6	38	120	158
印 旛	7	2	9	413	60	473
香 取	0	1	1	0	10	10
海 匝	0	0	0	0	0	0
山 武	3	5	8	161	305	466
長 生	3	14	17	153	357	510
夷 隅	13	0	13	2,055	0	2,055
安 房	5	9	14	50	85	135
君 津	75	2	77	3,344	241	3,585
計	110	40	150	6262	1227	7489

- 注 1) 学校の利用は主として授業時間での利用
 2) その他の利用とは 1) 以外の利用を指す

【利用形態別内訳】



【月別利用実績】



(10) 教育の森の認定数の推移

農林振興 センター名	年 度 別 認 定 数												累計
	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	
千 葉						(4)	(3)	(3)	(2)	(1)	(3)	(3)	
	4	3	3	2	1								12
東 葛 飾						(2)	(2)				(2)	(2)	
	2	2	—	—	—						1		5
印 旛						(5)	(4)	(2)	(1)	(2)	(4)	(3)	
	5	4	3	2	2				1				13
香 取						(4)	(3)				(6)	(3)	
	4	6	2	1	—		2		1		1	1	12
海 匝						(3)	(3)		(2)	(1)	(3)	(2)	
	3	3	—	2	1						1	1	10
山 武						(4)	(5)		(1)	(1)	(5)	(6)	
	5	5	1	2	1	1	1		1		1		15
長 生						(5)	(5)	(2)	(2)	(1)	(4)	(3)	
	5	5	3	2	1								12
夷 隅						(1)	(3)	(1)		(1)	(1)	(1)	
	2	4	1	—	1					1			5
安 房						(5)	(4)	(2)	(1)	(1)	(4)	(3)	
	5	5	2	2	1			1		1			13
君 津						(4)	(4)	(4)	(3)	(1)	(6)	(5)	
	4	4	4	3	1	2	1				1		20
計						(37)	(36)	(14)	(12)	(9)	(38)	(31)	
	39	41	19	16	9	3	4	1	3	2	5	2	117
累 計	39	80	99	115	124	125	124	120	119	121	124	117	

1) 教育の森の認定は平成5年度から開始し、認定期間は5年間。

2) 裸書きは新規認定数で、上段()書きは外数で再認定数。

(11) 教育の森の利用実績の推移

農林振興 センター名	年 度 別 利 用 回 数								年 度 別 利 用 人 数						
	～10	11	12	13	14	15	16	計	11	12	13	14	15	16	計
千 葉	97	23	18	18	18	12	5	191	320	311	287	236	151	97	1,402
東 葛 飾	0	0	0	1	4	6	6	17	0	0	32	131	175	158	496
印 旛	21	10	15	11	12	13	9	91	1,285	1,960	1,431	1,546	1,485	473	8,180
香 取	10	2	0	0	1	1	1	15	80	0	0	20	100	10	210
海 匝	4	2	2	6	5	2	0	21	50	55	106	50	20	0	281
山 武	35	12	29	29	14	10	8	137	562	991	709	341	207	466	3,276
長 生	0	2	1	5	12	14	17	51	83	72	328	386	420	510	1,799
夷 隅	4	4	6	9	0	12	13	48	67	162	142	0	1,480	2,055	3,906
安 房	6	3	2	6	7	2	14	40	170	40	346	53	12	135	756
君 津	31	8	50	85	101	67	77	419	438	5,347	5,244	5,460	3,878	3,585	23,952
計	208	66	123	170	174	139	150	1,030	3,055	8,938	8,625	8,223	7,928	7,489	44,258

平成10年以前の利用人数はデータがなく不明。